

庭園の歴史に関する研究会

奈良文化財研究所では、庭園に関する調査研究をおこなっており、平成23年度からの第3期中期計画においては、中世庭園の研究に取り組んでいます。これは第1期中期計画(平成13～17年度)における奈良時代までの庭園の研究、第2期中期計画(平成18～22年度)における平安時代庭園の研究を引き継ぐもので、その流れの中で2011年度から、様々な分野の専門家を招いて「庭園の歴史に関する研究会」を開催しています。この研究会は、分野の異なる研究者がそれぞれの領域の専門的観点から庭園について考察することによって、新たな知見を得ようというものです。

2011年度は「鎌倉時代の庭園一京と東国一」、2012年度は「禅宗寺院と庭園」をテーマに、庭園史学・造園学の研究者のほか、考古学、国文学、美術史学、建築史学等の専門家が参加しました。

2012年度の研究会について簡単に紹介しますと、まず研究発表が5つあり、その後それらの発表を受けて総合討議がおこなわれました。研究発表は、西芳寺庭園の一部にある石組の作者、庭園と山水画の関係、禅僧夢窓疎石の事績を中心とした禅宗と庭園のかかわり、日本における禅宗伽藍と庭園の関係、日本と南宋の禅宗寺院建築および庭園等が主題として取り上げられました。続く総合討議では、日本と南宋の禅宗伽藍および庭園、禅僧夢窓疎石、山水画と庭園・假山といった3つの話題を中心に、各参加者が専門的な視点から意見を交わしました。

奈文研では、今年度以降も引き続き、足利将軍関連の庭園、戦国時代の庭園文化等をテーマに研究会を開催し、中世の庭園について更に掘り下げていく予定です。
(文化遺産部 中島 義晴)



研究会の様子